彦根城博物館だより 126

Hikone Castle Museum News
2019.9.1

テーマ展

井伊家の茶の湯
―伝来茶道具をめぐる10の物語―

2019年
10/25(金)
～
11/24(日)

大名物　宮王肩衝茶入　当館蔵

井伊家2代直孝が、大坂の陣での活躍の褒賞として、徳川家康から拝領した茶入です。直孝はこの茶入を非常に大切にし、取り出す時には袴を着用し、手を清めて臨んだと伝えられています。「宮王」の名は、千利休の謡の師であった宮王三郎鑑氏（？～一五五三）が所持したことに由来します。

その姿は大ぶりで、肩の張った堂々とした形に、強い存在感があります。釉の色も変化に富み、魅力ある風情を湛えています。その威風に満ちた姿は、直孝の戦功の輝かしさを表しているように感じられます。

展覧会情報

- テーマ展　8月23日▼▼9月24日　霊の面　怨霊・亡霊・神霊　―井伊家伝来能面から―
- テーマ展　9月27日▼▼10月22日　殿様の本棚　―それぞれの教養と趣味―
- テーマ展　10月25日▼▼11月24日　井伊家の茶の湯　―伝来茶道具をめぐる10の物語―
- テーマ展　11月27日▼▼12月22日　彦根藩井伊家の鷹狩り

展示案内

2019年 9月～12月

常設展示 “ぼんもの”との出会い
―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

霊の面　怨霊・亡霊・神霊
―井伊家伝来能面から―

8/23（金）～9/24（火）
※9/17は休館

霊とは、この世ならざる霊的な存在です。能には、霊をシテ（主役）とした様々な演目があります。霊の面には、鋭い角を持つ女の怨霊である般若や、この世をさまよう亡霊を表した痩男、颯爽とした男神でも使用する三日月などがあり、目や歯を金色として、人とは異なる存在であることを表現します。本展では、これら霊の面の種類とその特徴について紹介します。

能面　般若　井関家重作

能面　痩男　長雲庸吉作

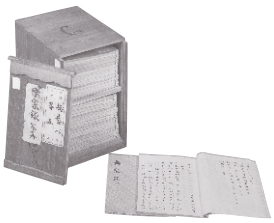
◉ギャラリートーク◉
■日時　8月24日（土）11時～、14時～
■講師　茨木 恵美（当館学芸員）
＊関連講座を開催します。（5頁参照）

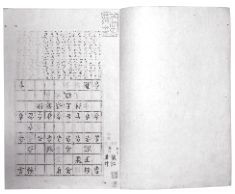
テーマ展　展示室1

殿様の本棚
―それぞれの教養と趣味―

9/27（金）～10/22（火・祝）

彦根藩井伊家の当主たちは、どんなことに関心を持ち、どんな本を読んでいたのでしょうか。茶の湯や雅楽、将棋、国学、馬術等々、その対象は実に多様です。
本展では、十一代直中、十二代直亮、十三代直弼の三代の蔵書を通じて、それぞれの個性を浮き彫りにします。


楽家録　直亮蔵書


諸家将棋指組記　直中蔵書

◉ギャラリートーク◉
■日時　9月28日（土）11時～、14時～
■講師　髙木 文恵（当館学芸員）
＊関連講座を開催します。（5頁参照）

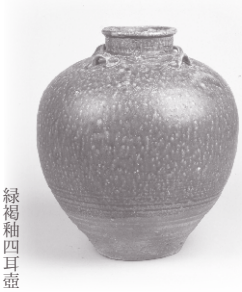
テーマ展　展示室1

井伊家の茶の湯
―伝来茶道具をめぐる10の物語―

10/25（金）～11/24（日）

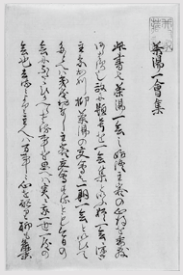
江戸時代、茶の湯は武家のたしなみとして重んじられました。井伊家でも、歴代当主が茶の湯をたしなみ、家格にふさわしい茶道具が収集されました。
本展では、井伊家二代直孝が徳川家康から拝領した名物茶入や、宇治の茶師が新茶を井伊家に納める際に用いた茶壺、彦根藩の藩窯で焼かれた湖東焼の水指など、井伊家伝来の茶道具の名品十点を、エピソードと共に紹介します。

湖東焼　金襴手芦雁図水指


緑褐釉四耳壺

《同時開催》　展示室3
特集展示　井伊直弼の茶の湯

江戸時代後期の代表的な大名茶人として知られる井伊家十三代直弼。彼が生涯を通じて追求した茶の湯の思想を、自筆の茶書やゆかりの茶道具を通じて紹介します。


茶湯一会集　井伊直弼筆

テーマ展　展示室1

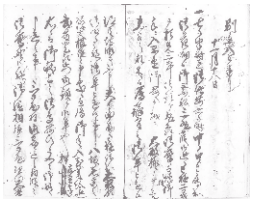
11/27（水）～12/22（日）

※12／9は休館

彦根藩井伊家の鷹狩り

鷹狩りとは、飼い慣らした鷹を使って鳥や小動物などの獲物を捕らえる狩猟の一つです。彦根藩井伊家の当主は、徳川将軍から鷹を拝領し、鷹狩りを行いました。井伊家は、陸地での鷹狩りだけではなく、琵琶湖の内湖で船からの鷹狩りも行っています。近江の自然環境に即したかたちで行われた鷹狩りについて、具体的な様子や特徴を古文書から紹介します。

鷹の図（「新修鷹経」）



井伊家当主の鷹狩りの記録（「御出留」）

◉ギャラリートーク◉

■日時　11月30日（土）11時～、14時～

■講師　竹内 光久（当館学芸員）

＊関連講座を開催します。（5頁参照）

コラム

文化財を守る ―博物館資料の燻蒸―

現在、彦根城博物館には、約九万一千件の文化財が収蔵されています。彦根藩井伊家伝来の美術工芸品や古文書を中心に、彦根藩に関する資料や彦根藩士家の資料、彦根ゆかりの絵師や書家の作品などが含まれており、その多くは博物館へ寄贈あるいは寄託いただいたものです。

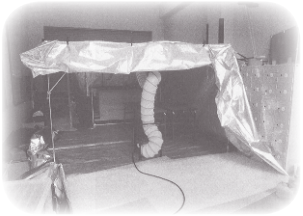
これらの文化財を後世まで永く伝えていくためには、さまざまな影響から守る必要があります。その中でも、特に注意しなければならないのが、虫やカビといった生物被害です。虫による文化財への主な被害には、食害があります。シミやゴキブリをはじめとする文化財害虫は、紙や布などの有機物を好んで食べるため、被害にあった部分の材や、そこに表されていた情報が永遠に失われてしまいます。一方、カビは、資料を変色させ、また染みのような跡を残します。

こうした被害を出さないために、博物館では虫の侵入やカビの発生がないか、定期的にチェックを行い、適切な環境を保つようにしています。

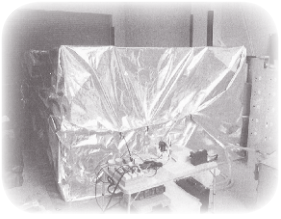
今から十五年ほど前までは、一度に虫とカビを効率良く処理できる方法として、各施設で殺虫・殺カビ用ガスを使った燻蒸が行われていました。燻蒸用の部屋のほか、収蔵庫や展示室などの広い空間でも実施されていました。しかし、このガスに含まれる臭化メチルがオゾン層を破壊する物質であるため、世界的にその使用が厳しく制限され、燻蒸剤に用いることができなくなりました。現在では、殺虫と殺カビの両方が可能で、自然環境と文化財への悪影響が極めて低いとされる酸化エチレンを用いた燻蒸剤が一般的となり、燻蒸は、最低限の回数と特定の範囲内で行うといった縮減傾向にあります。当館でも以前は、毎年、収蔵庫のガス燻蒸を行っていましたが、近年では、資料の購入や寄贈・寄託など、新たに館外から入ってきた収蔵する資料に限って、年に一度、小型テントを組んで燻蒸するだけとなりました。

文化財を保存していく上で、薬剤を使った燻蒸は、利便性の良さと高い効果を発揮しますが、用法を誤ったり、不適切な薬剤を使用すると、文化財の材質によっては変色・変質などを起こしかねません。また自然や人体への影響もきちんと把握する必要があります。

文化財を守りつつ、同時にそれを取り巻く環境も守るということが、現代の博物館には求められているのです。



燻蒸用テント



燻蒸中の様子

研究余録

金亀玉鶴

高宮出身の女性画家「秀蘭」

今を遡ること十三年前の平成十八年、当館で「彦根ゆかりの画人」展を開催しました。江戸時代に生を受けて画をよく描いた、彦根ゆかりの人びとを知り得る限り取り上げた企画でしたが、中には、作品を探し当てることができず、図録に名ばかりを掲載した人物もいました。

本稿では、その中の一人、女性画家の秀蘭（一八〇三～六三）について、展覧会後に明らかになったことを含めて、ここで改めて紹介します。

秀蘭は、中山道の彦根藩領内の宿場のひとつ、高宮出身です。展示図録では、京で活躍した石田逸翁（一八〇〇～六九）の妹ということで「石田秀蘭」と紹介しましたが、作品の落款から、姓は川部、秀蘭のほかに玉温、菊里、美寿と称していたことが判明しました。逸翁は、京の有名文化人名簿ともいうべき『平安人物志』の嘉永五年（一八五二）版にも登場する、知られた存在でした。菩提寺の圓常寺の記録には、岸派の祖・岸駒門人の白井華陽の弟子とあり、作品を見ても岸派の流れにあることは確実です。

では、秀蘭自身はどうだったのでしょうか。彼女の作品は、書も含めて現在六点を確認しています。絵画は、「六十齢秀蘭女史」の款記を持つ作品が二点、それらとほぼ一致する書体で「秀蘭女史」と書かれた作品二点と、これら四点とは異なる、墨をたっぷり含ませた筆致で「淡海秀蘭女」とある作品一点です。

結論から言えば、落款の筆致のみならず画風を見ると、前の四点は酷似しており、ほぼ同じ時期、つまり六十歳ないしその前後頃の作と見られ、最後の一点は他と大きく異なることから、比較的若い時期に描かれた可能性があると考えています。

四点は、温和で淡泊な画風で、人物や動物ないし樹木の表現等に岸派の要素も見られます。あるいは兄から学んだ可能性もあるでしょう。

若描きと思われる作品は「桜に猿図」（写真）です。滅り張りのある力強い筆致で、猿の毛並や桜の花弁を丁寧に細密に描き込み、正面から制作に取り組んでいる様子が窺え、他の四点の軽やかなイメージとは異なっています。具体的には、専ら桜の作品を描き続けたと言われる女性画家、織田瑟々（一七七九～一八三二）の画風に通じる要素が見られます。極端に糸状に伸びた葉先、ぷっくりした芳醇な花弁、太い線を重ねることで形づくる幹、そして全体の力強さは、瑟々画の影響を直接的に受けていると判断されます。たっぷりと墨を含んだ勢いのある落款の筆致も、瑟々のそれによく似ています。

桜に猿図

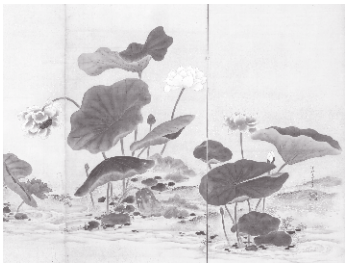
（右）蓮池図　落款　（左）桜に猿図　落款

瑟々は、滋賀県東近江市河合寺町の出身で、桜画で有名な京の三熊露香に師事して活躍していましたが、故郷に戻って桜画を描き続けたといいます。

瑟々の住した河合寺町と秀蘭の出身の高宮町は十六キロ程度しか離れていません。瑟々には弟子らしき人がほとんど確認されていませんが、想像を逞しくすると、二十四歳年下の秀蘭が直接出向いて教示を受けた可能性もあり、あるいは私淑して影響を受けたのかもしれません。今後、秀蘭の絵画史における位置づけが可能となるよう、新たな作品の出現が期待されます。

（髙木文恵）

四季耕作図　部分


蓮池図　部分

※本頁の作品はいずれも個人蔵

募集

◉わくわく体験スクール◉

彦根城博物館で、日本の伝統文化や歴史に親しむ「わくわく体験スクール」を開催します。令和元年度は、「茶道を楽しもう」と「江戸時代のお仕事カルタで昔の暮らしを知ろう」の2コースを体験することができます。ふるってご応募ください。両コースの申込も可能です。

①茶道を楽しもう（小学1～6年生対象）

【内容・日時】

■内容
茶道の文化を学び、御殿の座敷でお茶の体験をします。

■日時
10月5日（土）
1～3年生：13時30分～15時30分
4～6年生：10時～12時

■講師
外海（そとめ）和子（かずこ）氏

■定員
1～3年生、4～6年生：各20名
（応募者多数の場合は抽選）

■参加費　500円（保険料・資料代）

②江戸時代のお仕事カルタで昔の暮らしを知ろう（小学1～6年生対象）

【内容・日時】

■内容
江戸時代のお仕事の様子が描かれたカルタを使って、昔の暮らしを学びます。

■日時
10月27日（日）
1～3年生：13時30分～15時30分
4～6年生：10時～12時

■講師　当館学芸員

■定員
1～3年生、4～6年生：各20名
（応募者多数の場合は抽選）

■参加費　500円（保険料・資料代）

カルタの一例

①・②共通事項

【会場】
当館（講堂・木造棟　他）

【対象】
原則として彦根市・米原市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町に在学する小学生

【申込方法】
各小学校に配布する案内チラシの申込用紙に記入し、彦根城博物館まで持参・郵送、または当館ホームページからお申し込みください。

【申込期間】
①9月2日（月）～9月13日（金）必着
②9月2日（月）～9月27日（金）必着
＊①と②で申込期間が異なりますので、ご注意ください。

催し

◉テーマ展関連講座◉

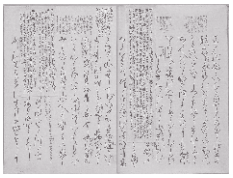
彦根城博物館の学芸員は、各自の研究テーマや担当するテーマ展などに沿って、調査・研究を進めています。今回は、テーマ展の開催にあわせて、展覧会を担当した学芸員がその内容をさらに掘り下げて解説します。

■日時・内容・講師

①9月14日（土）14時～15時30分
テーマ展
「霊の面　怨霊・亡霊・神霊」
関連講座
「霊の面の種類と特徴」

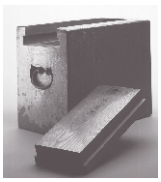
能面には、この世ならざる霊的な存在、怨霊や亡霊、神霊などを表したものがあります。これら霊の面の種類や特徴について、面を使用する演目の内容にも触れながら紹介します。
（茨木恵美）

②10月12日（土）14時～15時30分
テーマ展「殿様の本棚」関連講座
「井伊家伝来典籍から見える藩主の姿」



彦根藩主井伊家伝来典籍の中に、当主の蔵書印のあるものが見られます。これら蔵書から、茶の湯や雅楽、将棋、馬術等々、11代直中、12代直亮、13代直弼の関心をたどり、その個性を浮き彫りにします。
（髙木文恵）

③11月9日（土）14時～15時30分
テーマ展「井伊家の茶の湯」
関連講座
「10の物語でひもとく井伊家の茶の湯」



井伊家2代直孝が徳川家康から拝領した名物茶入をはじめ、井伊家伝来の茶道具には様々なエピソードがあります。講座では、名品10点にまつわるエピソードを紹介します。
（奥田晶子）

④12月14日（土）14時～15時30分
テーマ展「彦根藩井伊家の鷹狩り」
関連講座
「江戸時代の鷹狩り」
江戸時代、彦根藩井伊家の当主は、将軍から拝領した鷹を使って、近江国内において鷹狩りを行いました。その具体的な様子や特徴を古文書から明らかにし、より深く紹介します。
（竹内光久）

■会場　当館講堂
■定員　各60名
■資料代　各100円
■受付　当日受付（先着順）

スケジュール 9月〜12月

9月

- 7土 能。狂言 第53回彦根城能
- 14土 講座「霊の面の種類と特徴」
- 17火 休館
- 28土 ギャラリートーク 殿様の本棚 —それぞれの教養と趣味—

テーマ展：霊の面 怨霊・亡霊・神霊 —井伊家伝来能面から— 8/23 〜 9/24

10月

- 12土 講座「井伊家伝来典籍から見える藩主の姿」
- 26土 ギャラリートーク 井伊家の茶の湯 —伝来茶道具をめぐる10の物語—

テーマ展：殿様の本棚 —それぞれの教養と趣味— 9/27 〜 10/22

テーマ展：井伊家の茶の湯 —伝来茶道具をめぐる10の物語— 10/25 〜 11/24

9/24 〜 26 展示替により一部休室

10/23・24 展示替により一部休室

11月

- 9土 講座「10の物語でひもとく井伊家の茶の湯」
- 30土 ギャラリートーク 彦根藩井伊家の鷹狩り

テーマ展：彦根藩井伊家の鷹狩り 11/27 〜 12/22

常設展示 “ほんもの”との出会い

11/25 〜 27 展示替により一部休室

12月

- 9月 休館
- 14土 講座「江戸時代の鷹狩り」
- 25水〜31火 休館

テーマ展：彦根藩井伊家の鷹狩り 11/27 〜 12/22

12/23・24 展示替により一部休室

◉第53回彦根城能◉

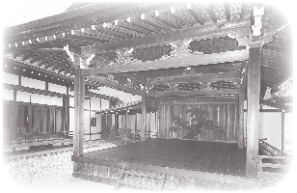
彦根城能は、今から二〇〇年ほど前の寛政十二年（一八〇〇）に、彦根城表御殿に建てられた能舞台を使って演能します。風の音や時のうつろいなど、自然が織りなす演出とともに、歴史ある舞台での公演をお楽しみください。

■開催日時・場所
9月7日（土）
16時30分開演（16時開場）
当館能舞台

■演目
【お話】
「獅子の能になった『望月』」 天野 文雄
宝生流仕舞「井 筒」 金森 秀祥
大蔵流狂言「因幡堂」 茂山 あきら
宝生流 能「望 月」 辰巳 満次郎

■チケット
全席指定
A席（正面席）5千5百円
B席（脇正面席）5千円
発売中

＊開演時刻・演目・出演者等は、都合によりやむなく変更することがありますのでご了承ください。
＊チケットは当館受付および電話にてお求めいただけます。
＊未就学児は入場いただけません。
＊例年、彦根城能と水無月・錦秋狂言の公演を行っておりましたが、今年度は、彦根城能のみの開催となります。



◆暫定予算にともなう博物館行事について

２０１９年度の彦根市予算が暫定予算となり、当初予定していた能や講座などの諸行事について、開催決定およびお知らせが例年に比べて遅くなりました。皆様には、大変ご迷惑をおかけ致しました。６月下旬に本予算が成立したため、今後は従来どおりの時期に通知させていただきます。

世界遺産 彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登載されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町１番１号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
http://hikone-castle-museum.jp/
この印刷物は 4000 部作成し、印刷単価は約 21 円です。